

安全な生活を支える “縁の下の力持ち”



日ごろ、私たちがくらしの中で使っている、道。この、道＝道路が、実は私たちの安全な生活を守るために重要な機能と役割を持っていることを知っていますか？
今号は、道路の意外な働きについてご紹介します！

交通機能と、公共の空間機能を合わせ持つ “唯一完全なネットワーク”

東日本大震災では、道路の復旧が早期に行われ、緊急車両や救援物資の輸送車が現場を行き交いました。こうした様子を目にして、道路の機能について認識を新たにしたい方もいると思います。道路は、人類の歴史とともに始まり、現在にいたるまで私たちの生活を支え続けています。人や物、情報を自由に運ぶことで、通勤、通学、買物などの日常生活や経済活動を支える重要な役割があります。また、道路の下には、公共空間として電気やガス、上下水道などの公共施設、地下鉄や

モノレールなどの公共交通機関を収容するほか、災害時には避難路を確保し、消防や救急活動、復旧支援の場として安心・安全を守るための役割も果たしています。道路は、国土のすみずみまで張り巡らされた唯一完全なネットワークであるとともに、まちとしての骨格を形成する、私たちの生活に不可欠なものだといえるでしょう。日ごろ何気なく使っている道路の、意外な機能と役割を考えると、大切な道路の安心・安全を守る、地域と行政の活動をご紹介します。

安全を守る！ POINT 1

災害時には防災空間として 実力を発揮！

道路は、災害時に重要な役割を果たします。緊急交通路として、救急車や消防車などの緊急車両の円滑な活動を可能にするほか、火災のときには延焼を防いだり、地震時には避難路や退避場所にもなります。

現在計画的に行われている道路の整備は、交通に関する対応だけでなく、災害時における対策のためでもあります。

安全を守る！ POINT 2

道路の地下空間を利用して ライフラインを収容

道路の地下には、電気やガス、上下水道、電話線などの、さまざまなライフラインが収容されているほか、地下鉄やモノレールなどの公共交通機関、地下街、地下駐車場などの公共施設にも活用されています。

また、電線類を地中化し、電柱を撤去する作業が順次進められ、まちの景観を美しくすることに繋がっています。

安全を守る！ POINT 3

なまズの絵や標識が目印！ 災害時には交通規制を行います

大規模な地震や災害が発生した場合には、救命活動や物資輸送を行う緊急車両の通行を確保するため、高速道路や国道などの主要な道路が「緊急交通路」の予定路線として都道府県警察によりあらかじめ指定されています。

写真のように、なまズの絵や災害時規制標識などがある道路は「緊急交通路」に定められていて、災害時には、消防車や救急車などの特別な車しか通ることができません。



これらの看板がある道路は、緊急車両が通るため、復旧作業も他の道路より優先されます。



通常時の標識

災害規制時の標識

安全を守る！ POINT 4

再確認！ 自転車の交通ルール

自転車は、運転免許がいないものの、道路交通法では「軽車両」に分類されています。したがって、「自転車及び歩行者専用」の道路標識（右図）が設置されているような自転車の通行が認められた歩道を除き、本来は車道の左側を走ることが定められています。しかし、車の交通量が多く車道に出ることが危険なときなど、歩道を走らざるを得ない場合には、歩行者を優先して、歩道の車道寄りの部分を徐行することが必要です。



「自転車及び歩行者専用」の道路標識



← 次ページでは、大切な道路を守る、地域の活動と行政の取り組みをご紹介します。